

あしがら農の会

通信 1月号

第105号 2011年1月18日発行

発行 NPO 法人 あしがら農の会

ホームページ <http://nounokai.com/>

代表 松本 邦裕 090-1735-3748(携帯)

編集 鈴木 淳子 0465-72-5243(TEL/FAX)

E-mail yamanohatake@ac.auone-net.jp

地場旬自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO 法人化)

地域の中の休耕田を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

農産物の宅配: 会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給のための野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果樹、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

田んぼの会: 現在約100家族以上が、あしがら平野の13ヶ所で自給用の稲を育てています。

お茶の会: 山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始まりました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

大豆・味噌の会: 大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴作りから味噌作りを行っています。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

生産者紹介コーナー ↓ 笹村農鶏園 笹村さん ↓

笹村農鶏園絵図



明けましておめでとうございます。

料理人は大半を厨房で過ごします。オフタイムも素材と料理のことばかり考えています、もちろんバイクで走っている時も畑が気になります、休憩は道の駅で地場の食材を見て回り、美術館に行ってもレイアウトや色使いを研究し、レストランなんかに行ったら一皿の素材ごときめ細かくばらしていったら味見していくのでだらしないと言われます。自分はこれで幸せなのです土をいじってる方にあうところの笑顔が一番ごちそうなんですよね。なんだかんだ言っても生産者って太陽の光いっぱい浴びて土から栄養もらって汗かいて・・・何時までも笑顔でいてください。

伊藤 勇作

今年の抱負

今年から田んぼを借りて、個人的に始める事にしました。1年間に家族が食べるお米を、自分で作りたいのと、最初から最後まで自分の責任で、米作りをしたかったからです。

田んぼに関わるようになってから、まだ2年しか経っていませんが、お米を作る事が楽しいし、子供達に安心して食べさせられるので、やる気も湧いてきます。ただ借りた所にイノシシが出没するので、対策をしっかり取って食べられない様にしておかないと・・・。

山室 光由

じゅうひめ

十姫 夢の田んぼ (うちやま)

昨年、農業委員会に申請した「市民農業者支援制度」が受理されて、この制度の第1号となりました。今年、色々な意味で「やるしかない！」夢のマイ田んぼ、始めます。場所は家のそばで面積4畝半程。私一人で管理できるギリギリか…。とはいえ、資金も人手も欲しい。応援も募ろう！ということで、早速支援者を募り、賛助会員数名。メルマガも作ろうか…。こんな事ばかり浮かんできます。自分の好きにできる嬉しさは、不安よりも大なり！考えているのも楽しいのです。

小さな田んぼで、夢は大きく…。まずは地域の信頼を得られるように、コツコツと。応援、宜しくお願いします。

鈴木 淳子

[賛助会員募集]

私の活動を、応援してくれる人を募ります。

年会費 1000円

特典 ①お米1キロ 無条件で貰える

②田んぼの作業に参加できる

※会員の方には、田んぼ通信を配信。

※お米の販売も。価格:1キロ600円。



イラスト:by Yoshida Ken

千田 正弘・富美子

○昨年の「冷春・激夏」の大打撃に振り回された千田畑。それに耐え、野菜の到着をジーツと待ってくださった配達先の方々。あきらめることなく、つながってくださり感謝・感謝です。

今年は・・・？やっけて行くだけです！（ふ）

○自分ができることを、精一杯。／生の音楽を聴きたい。（ま）

農場こぶた畑

例年、正月が一番仕事が捗るということで、加工所を作ったりハウスをばらしたりと、ケジメもヘツタクレも無く過ごしていましたが、今年はX'masから海が風邪を持ち込み、結果のんびりした年末年始。料理の気力も無い中で、X'masにりんごの豚さん剥きを発明し、晦日に松前漬が簡単に出来る事を発見したのは、ケガの巧妙というものでした。

相原 海

そんなこんなで今年の目標はまずは健康第一、ですな(^_^;)2月に子宮筋腫の手術を受けます。だんだん大きくなってこの頃はあちこちビミョーに体調不良。ただ年のせい?!ではないはず…さっぱり取って元気回復するゾ。

相原 佑子

“戒驕戒躁”

“見て美味しい、触って美味しい、食べたら本当に美味しい野菜作り”を目指します。

もちろん焦らず気張らずでもしっかりと足元は固めながら、最後はなんくるないさの精神で・・・

先ずは基本中の基本である土づくりから・・・

なんくる農園 (松本邦裕)

正月の過ごし方

お正月は毎年、埼玉の実家へ軽トラで2人と2匹(猫と犬)で帰省します。(定員オーバー?)

犬は加藤家、猫は作美家、1泊は加藤家、1泊は作美家で過ごし、2泊3日の休業日となります。

そらや

「ゲリラ豪雨に猛暑、去年はどんな年だっただろうと振り返ることをしたくないほど天候に振り回され野菜作りが大変でした。(今年に入っても苦しみは続いています)

生産者となり今年で4年目となりました。今年の抱負は安定的に野菜を作りたい!! 毎年同じ抱負です。今年は新たに2反弱の畑を借りられることになりました。今の広さの倍近くです。不安はたくさんありますが、今までできなかった緑肥を組み合わせての畑作りをやってみたいなあと思っています。なかなか思うようにできないことばかりかもしれませんが、少しでもできるよう努力、試行錯誤しながら、一年を充実した年にしたいと思っています。

吉田 裕香

相合?傘 (小野おとうさん)

年初から、学校でも広める?とかいうタブレットPC(I-Pad)を娘に、お父さんはスマート・フォン(AU-IS03)を、地デジ液晶TVと共に我が家はまとめてIT装備化?

このI-I傘、てこずることしきり。こちらの指も悪いけど、とてもSMART(賢い)とは言えず。便利は不便の典型で、特に「文字」は打てない。

最たるものが、PCメール。専用(Android用)の開発ソフトとはいえ、携帯メールと同時に使えるとの触れ込みなのに、エラー続き。我が家では、PCメール中は、誰もストレスお父さんに近づくな!! となっています。ヒドイ。

小野 翻陽人

生産者新年顔合わせ会

毎年宅配の初荷の夜(今年は7日)、生産者を中心に新年の抱負などを語り合うために集まるのが恒例に・・・

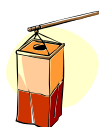
これに合わせて今年の市への出店の取り組みと剪定チップの堆肥化についても話をしたかったのだが・・・タイムUP・・・

そんな中大豆の価格についても話題に・・・徐々に大豆の値段も上がりつつある中、農の会としても一度見直すことに。

また、このところ何かと話題に上るTPP問題。関税が自由化され海外で安く有機野菜が生産され輸入されだしたら、我々弱小の有機農家はどのように対処すべきなのか・・・安全安心、美味しいだけではままたまらない・・・プラスαとして地域に根差した関係性が更に重要に。農の会の宅配も当初は生産者或いは農業を支えるために宅配を始めた方も多かった。徐々に有機農産物が手に入りやすくなり、より安心でより美味しい野菜が求められるようになってきた。農の会の〇〇さんの野菜なら信頼できる、この地域には〇〇さんの畑があって良かった、と思われるように。我々もプロの農家として技術の向上に努めるのは至極当然ではあるが、より畑が身近に感じられるような工夫も必要なのかも。現在も各々が工夫をしていると情報を発信している。今後は各生産者がしっかり力を付け自立すると同時に、農の会としても各生産者が共有できるコンセプトを整理しもっと前面に打ち出していくことも必要になるのかもしれない・・・

一昨年よりの小田原まちなか市場などの取り組みもその一環。農商工連携により地元の生産物を地域で消費していく。物を作る人も売る人も買う人も楽しくなる、嬉しくなるそんな場に・・・。 なんくる農園(松本)

お知らせ



●小田原まちなか市場(終日)

・2月19日(土曜日)
(お菓子祭りと同日)

●プチ朝市(朝2時間) 基本第2・4の日曜日

・近々の予定 1月30日・2月13日・2月27日

※1月30日は都合が悪く不参加

※2月は野菜不足ではあるが出店の協力依頼あり

Mさんとはすっかり友人付き合いですが、大豆畑や舟原、欠の上の田んぼでぼくを見かけた程度の方も居られると思いますし、ましてや「通信」にはじめての登場ですので、自己紹介をしようと思います。名前は岡田照男、どの文字も角張っていますが名は体を表さず、円い人を自負しています。

1947年1月に東京で生まれました。職業は映画監督、これまで主に記録映画や教育映画などを製作してきました。11月には国際有機農業映画祭2010に「あしがら農の会」の活動をモチーフにしたビデオ作品「ここから」を製作、出品しました。時に演劇の仕事もしています。05年にはジャン・コクトー作『声』、08年にはサミュエル・ベケット作『しあわせな日々』、09年にはスワボーム・ムロジェック作『セレナーデ』を演出しました。いずれも50人足らずの小劇場の上演ですが、ドラマの本質を探ってきました。現在は他の記録映画や演劇の仕事を休止して「通信」100号の発刊を機に、記録映画「耕す人々」(仮題)の製作に専念しています。ここでは「あしがら農の会」の活動を10年間に亘って克明に映し「農」の自立を考えたいと思っています。

これまでの撮影日数は31日、数百時間分の映像

が手元にストックされています。これらの画像からカメラの前に立つことに不慣れなMさんを「農」に全く不慣れなぼくがカメラの後ろで撮ることに少しずつ馴れて融和する様子が窺えます。例えば、今年の最後の撮影は忘年会でした。主題は米の味比べ、とはいえ特段の賞讃も非難もなしのガヤガヤザワザワの極めて「あしがら農の会」的な品評で、そのうちに酒の酔いと緋い交ぜの混沌が暫く続き、二十数名の参加者全員にインタビューの一言を求めれば、実りについての反省と期待が一気に語られ、かすかに余韻を残して幕となります。幕引き後に居残る方も居て、闇がだんだんと深くなって行けば、カメラはすっかり忘れられ「大量消費主義」からの脱皮についての語らいが始まります。これらの事態をぼくは撮影当初の臆げな映画の行方に目鼻がたって、いずれは確かな映画として結ばれるのではないかと、という予兆のようにも感じます。

まるでサン・テグジュペリの寓話に登場するキツネの『大切なものは目に見えない』という啓示のようにも思うのです。この嬉しい予兆や啓示を手がかりにして、春から一枚の田んぼの営みを撮り始めたいと思います。今年もどうぞ宜しくお願いします。

野菜よもやま話 ～小松菜の巻



大昔(といっても1980年代の話ですが)関東育ちの私が関西に引っ越した頃は京都の八百屋に小松菜は殆ど無かったように記憶しています。青菜といえばホウレン草と小松菜と思っていた私にとって、「かしわ」が鶏肉のことだと知ったのと同じくらいのカルチャーショックだったような。今では、全国的に生産されるようになってきましたが、東京江戸川区の小松川地区が小松菜の名前の由来で、主に関東で多く生産され、今でも全国の生産量の8割が関東産だそうです。現在では周年栽培されていますが、夏に露地で作るのは難しく、やはり旬は寒くなってからで、霜に当たってからが美味しくなります。正月の雑煮に欠かせない方も多いのではないのでしょうか。

原種はヨーロッパから中国を経て奈良時代頃に日本に入ってきた蕪の仲間で、葉の部分を主に食べる多くの品種が各地に生まれ、江戸では冬菜と呼ばれていたものを、小松川に鷹狩りに来た徳川將軍吉宗が小松菜と名づけたとか。ほうれん草より灰汁が少ないので茹でずに調理が出来て栄養価的にもビタミン、カルシウム、鉄分などが多いので、沢山食べたい野菜の一つです。あまり日持ちはしないので、届いたらなるべく早く食べてくださいね。

そらや 作美 尚子

【お知らせ】

- 2月定例会 2011年2月12日
場所:フルーベリーガーデン旭
時間:18時半～21時 ※司会:船原田んぼ
- 定例会の担当(内容)
 - 1 月欠の上田んぼ
 - 2 月船原田んぼ (環境ネット)
 - 3 月夢の田んぼ (苗代)
 - 4 月大磯わくわく田んぼ(茶摘み)
 - 5 月新永塚田んぼ(田んぼ)
 - 6 月梅の里田んぼ(大豆の事)
 - 7 月親子田んぼ
 - 8 月子ノ神田んぼ
 - 9 月ぼち田んぼ
 - 10 月志村さんの田んぼ
 - 11 月山北田んぼ
 - 12 月定時総会(松本)

お知らせは、掲示板を確認 ↓

★掲示板アドレス

・一般的な連絡はこちら↓
<http://nounokai.com/wforum/wforum.cgi>

・機械に関する事は↓
<http://0bbs.jp/nounokaikikai/>

【補足】一定例会の運営についてー

- 事前のアナウンスをしっかりとすれば、会場の設定も各担当が決めて良い。会場費は会計(瀬戸)へ請求。
- また、掲示板を知らない会員も多いのではないかと、いう事で、田んぼのMLでは掲示板のアドレスも流す確認がされた。

【通信が置いてあるお店】

菜こんたん/ポタジェラ/カフェブラッサム/IN NATURAL/バックシュトゥーベ IMAYA/ 季去来亭/アイラナ/えれんな ごっそ ショップ/Capace